

### Ⅲ 「農のある暮らし」の実践例

農林水産業が果たしている役割を理解し、その大切さや農林水産物の価値を知ることは、知らず知らずのうちに地域の農林水産業を応援したり、自らの健康的な生活につながったりします。

そこで、県民のみなさんに農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れていただく「農のある暮らし」の実践を進めています。

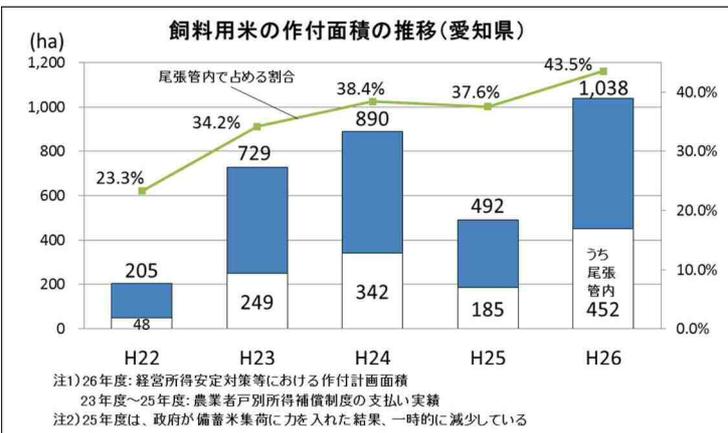


### 尾張地域で広がる飼料用米生産の取組

主食用米の需要が減少する中、国は米価安定のため、経営所得安定対策等による助成制度を軸として、主食用米から飼料用米への転換を推進しています。

本県における飼料用米の作付面積は、主食用米とほぼ同じ管理で生産できることなどから、助成が開始された平成 22 年度以降増加傾向を示しています。26 年度の作付計画面積で、尾張管内は 452ha と県全体の 4 割以上を占め、中でも JA 愛知西管内（稲沢市、一宮市）は 346ha と県内で最も取組が広がる地域となっています。

引き続き米価の低迷が懸念される中、生産者の所得確保に向けて関係団体と行政が一体となり、説明会の開催、リーフレット配布などを通じた交付金制度の周知や米価下落時の経営試算の提示など、飼料用米生産の取組推進が図られています。



飼料用米の作付ほ場(稲沢市内)

## 小牧発 卵用名古屋コーチンのブランド化

農業改良普及課は、農業総合試験場との連携のもと、11月4日（火）に名古屋コーチン発祥の地である小牧市において、「名古屋コーチン卵品質評価会」を開催しました。この評価会は、平成25年春から雛の供給が開始された新「卵用名古屋コーチン」卵の品質特性の理解を深めブランド力を高めるために行い、養鶏農家、鶏卵実需者等約70名が参加しました。

評価会では、消費生活アドバイザーの柴田智子氏による「卵かけご飯に合う卵は？」と題した講演と農業総合試験場養鶏研究室美濃口主任研究員による「名古屋コーチン卵の科学的特性について」の講演の後、名古屋コーチン卵と白色卵をそれぞれ使ったプリン、どら焼きの食味試験を行いました。

管内には、現在、7戸で約4千羽の卵用名古屋コーチンが飼育されています。名古屋コーチン卵とその加工品のおいしさ、特性が関係者に理解され、今後、名古屋コーチン卵のブランド力が高まり、さらなる普及拡大と消費者の購入増加が期待されます。



食味試験

## みんなでやろう！



水が気持ちいい

「農村環境保全活動」に取り組む活動組織が、一宮市内の小学校と連携し、平成26年6月に「田植えの体験学習」を実施しました。

地域住民との交流も深まり充実したものになりました。

当日は地元保全会会員の指導のもと、児童が1株1株植え付けました。子どもたちは初めての体験に大はしゃぎでした。

主食となる「お米」を植える体験を通して、児童が「食」や「農業」そして「農地」にも関心を持つようになることを主催者は願っています。

## いろいろな「ギンナン」をご賞味ください

稲沢市祖父江町では、地元の特産品である「ギンナン」を積極的にPRしており、地元の飲食店等ではギンナンを使った商品が数多く作られるとともに、黄葉の時期には「祖父江イチョウ黄葉祭り」なども開催されています。

その中で、「祖父江ぎんなん」の名前を全国に広くPRしていくために、平成21年6月に生産者と地域関係機関で「祖父江ぎんなんブランド推進協議会」が設立されました。協議会では、県食品工業技術センターと共同でイチョウの雌花から分離された酵母を使った純米酒「プリンセス・ギンコ」や地元加工業者と共同で「ぎんなんジャム」など多くの商品を開発しています。これらのギンナン加工品は平成26年11月に開催された「いともあいち地域サロン」にも出品され、多くの方が色々な「ギンナン」を楽しまれました。

農林水産事務所は今後も「祖父江ぎんなん」が地域で、広くは全国で親しまれるブランドに発展していくよう支援していきます。



雌花の酵母使用純米酒



ぎんなんジャム

## めざせ野菜350g！

春日井保健所管内栄養士会は、平成26年9月、春日井市主催の健康救急フェスティバルに出展し、野菜に関する食育に取り組みました。

当日は、来場者に野菜を使った簡単な料理のレシピや県産野菜をPRするパンフレットを配布しました。パネルでも野菜の栄養やレシピを紹介し、一日の望ましい野菜摂取量である350gをめざそうと呼びかけました。参加した子供達はクイズで野菜の栄養を楽しく学び、大人は日頃の野菜摂取量が足りているかどうかを栄養士に相談するなど、野菜を通して食について学ぶよい機会となりました。



賑わうクイズ受付



パネルを見てクイズに挑戦

## 「みろくの森」で間伐・キノコ植菌体験を開催

林務課では、春日井市を中心に環境活動を行っている「みどりのまちづくりグループ」と協力し、平成 26 年 11 月に「みろくの森」(春日井市)で間伐・キノコ植菌体験を開催しました。

まずは、ヒノキ林で手ノコとロープを使い、森林を健全に育てるための間伐作業を体験し、明るくきれいになった林内にやりがいを感じていただきました。

次に、コナラ原木にシイタケの駒菌を打ち込む駒打ちと、ヒノキ間伐材にナメコとヒラタケを植菌する体験を行いました。ナメコとヒラタケは翌年の収穫体験を楽しみにして林内に伏せ込み、シイタケ原木は各自持ち帰りました。

参加者には森林を満喫していただくことができました。



大きな木を手ノコで伐るのは大変！



ヒノキの間伐材にキノコを植菌

## 「農業体験農園」の取組支援

農業改良普及課では、現役の農家の指導のもと、都市住民が作付け計画に沿って年間 30 種ほどの野菜を栽培、収穫する実習型の農業教室「農業体験農園」の取組を支援しました。農業体験農園は、都市住民との交流により付加価値を創出する新たなビジネスモデルとして注目されています。本県では 9 農園が開園しており、うち管内には 6 農園あります。

平成 26 年度に開園した名古屋市緑区の農園については、区役所や JA なごやと連携し、入園者募集や農園の整備、講習会の計画などを支援しました。この農園には



講習会で農家の手ほどきを受け、野菜を栽培します

定年退職後の中高年者から家族連れまで幅広い層から応募があり、16 組が入園しました。入園者からは「採れたての野菜がおいしかった」「自分でも立派な野菜が栽培できた」などの声が聞かれ、好評でした。本県では始まったばかりの取組ですが、支援と PR を行い、農業体験農園の輪を広げていきます。



## 愛知を食べよう いいともあいち

食と緑の尾張地域レポート ' 15  
(平成26年度版)

平成27年6月

愛知県尾張農林水産事務所  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6-1  
電話(052)961-1597(農政課直通)  
E-mail [owari-nourin@pref.aichi.lg.jp](mailto:owari-nourin@pref.aichi.lg.jp)  
ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/nourin-owari/>



尾張農林水産事務所